

クラシノコアゲ応援団県内統一街頭行動 第25弾 (2/7)

月例賃金に拘った春闘と位置づけ、拡大し続ける企業間格差、地域間格差の是正を目指す 生産性向上は労働者の働き方だけで決まるものではなく、業務全体の見直しが不可欠



応援団長として挨拶する
今野泰連合福島会長

連合福島の「クラシノソコアゲ応援団街頭行動・第25弾」は県中央行動として2月7日（木）、JR福島駅東・西口で開催した。

福島駅東口での街頭行動では、応援団長である連合福島今野泰会長が『2012年12月から続く景気回復が、戦後最長と言われているが、景気回復が幾ら続いたとしても賃金の伸び悩みにより景気回復が実感できず、豊かさも実感できない現状にある。厚労省の毎月統計調査でも実質賃金の伸び率がマイナスとなった事が明らかになり、これを裏付けるように消費の停滞、そして低い成長率との関連性も明らかとなった。企業の内部留保は、過去最高を更新している

にも関わらず、労働分配率は43%の低水準にある。海外経済の不透明感が増し、消費増税を10月に控えている今、企業収益を社会に還元し経済の底上げを果たす時期を迎えている。連合は月例賃金に拘った春闘と位置づけながらこの間拡大し続ける企業間格差、地域間格差の是正を目指していく。また、連合は、今年4月から時間外労働の罰則付き上限規制導入への具体的対応として、36協定締結は無論のこと内容の精査を行い、そして、この取り組みを社会的な広がりに向け、3月6日を「36記念日」と位置づけた。改めてこの春闘を取組む前に、今一度働き方改革の本質を振り返る必要がある。安倍政権は一貫して働き方改革を成長戦略として位置づけてきた。しかし、それはあくまでも経営者側の意向に沿ったものであり、時間外労働の罰則付きの上限規制と高プロ創設と言う相矛盾するものを一括法案として同時に成立させた。



福島駅東口での街頭行動



福島駅西口での街頭行動

生産性向上が労使共通の課題でも、非効率性の責任が、社員・従業員に向けられ、働き方の見直しが進められている。長時間労働規制・抑制がかえって過労を生むパラドックスに陥ることも懸念をされる。何故、長時間労働が生まれるのか、その原因を明確に向き合わなければならない。生産性向上は労働者の働き方だけで決定されるものではなく、適正な人員配置と設備の充実、取引慣行に左右されること、このことをしっかりと理解する必要がある。

我々は、生産性の改善は業務全体の見直しが不可欠であることを春闘でしっかりと示し、そしてまた、改善要求を全職場で取り組む決意である。少子高齢・人口減少社会、県内の経済状況も踏まえた中で労働環境の改善、そして、それらの具体的な取り組み、このことを2019春闘ではしっかりと示し、多くの組合員そしてまた、県民の皆さんの共感のもとに、この春闘に取り組んでいく。ある意味、現在の社会の格差をはじめとした様々な課題、その改善・解決の一翼を担う春闘の社会的な意義と目的のロジックと言うものをしっかりと認識、そして全体で共有しながら、エネルギーな春闘、その裾野の広がりを目指していく』と訴えた。

(裏に続く)

(表より続く)

【JR福島駅東口】



左から、司会を務めた連合福島・八巻正一副事務局長、「働き方改革、労基法の改正点、アクション36」について訴えた連合福島・飛田博之副会長、「格差是正、最低賃金の是正、労働相談ダイヤルの周知」を訴えた連合福島・坂路芳知副会長、連帯の挨拶をいただいた社民党福島県連副代表・八重樫小夜子郡山市議会議員



「働き過ぎに レッドカード」チラシ入りティッシュ、「36の日金太郎飴」のグッズを配りました

【JR福島駅西口】



左から、司会を務めた連合福島・遠藤徳雄副事務局長、応援団を代表して挨拶した連合福島・加藤光一事務局長、連帯の挨拶をいただいた社民党福島県連副代表・八重樫小夜子郡山市議会議員、奨学金制度の課題と制度拡充を訴えた県労福協・佐久間通事務局長、応援団の取り組みを紹介した連合福島・遠藤和也副会長



「働き過ぎに レッドカード」チラシ入りティッシュ、「36の日金太郎飴」のグッズを配りました